２０２２年１０月入学

名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学領域

博士後期課程学生募集要項

（社会人選抜を含む）

【アドミッションポリシー】
自然科学に関する高度な学力とその応用力を有し、学際性や国際性を磨きつつ、自然の理の探求とその解明に挑戦し、自然科学の新しい研究分野を開拓することができる、強い意志をもつ人を受け入れます。

名古屋大学大学院理学研究科では、2022年4月に組織改編を行いました。これに伴い、新しい教育研究体制として、１専攻（理学専攻）の下に、専門性に応じて緩やかに連携した14のコースを設けています。これにより、これまでの3専攻の境界にとらわれず、領域を超えた融合的・学際的研究を推進する体制を構築します。一方、教員の属する組織は、学部教育の観点から物理科学、物質・生命化学、生命理学の3領域に分かれます。次ページの専攻・領域・研究分野・コース相関表にあるように、3領域に所属する教員は、コースに応じて領域を超えて連携し最先端の研究を通じて大学院生の教育を行います。

博士後期課程学生は、入学時に主指導教員と相談の上、コースを決定して、副指導教員を異なる研究室から1名以上選出することになります。

出願者は、出願前に志望する研究室と連絡を取っておいてください。その際、研究室と相談の上、出願前に研究室訪問を行っておくことを推奨します。

在職しながら本学で研究を希望する社会人選抜を希望する者は、必ず希望する研究室に相談の上、出願してください。その際に、長期履修の希望についても併せて相談してください。なお、社会人選抜での入学者についての卒業に関する要件は、一般の学生と変わりません。

2022年からインターネット出願を開始します。出願に必要なパソコンやプリンター等のデバイス、メールアドレス、顔写真データ、支払方法、提出書類等を確認してから出願してください。また出願前には、マイページを登録することになりますので、時間には余裕を持って出願をおこなってください。なお、メールアドレスについては、大学から入学試験に関する重要なお知らせが配信されることがあります。変更や削除の可能性がなく、日常的に確認しやすいものを準備してください。

専攻・領域・研究分野・コース相関表

専攻名	領域名	研究分野	コース名													
			素粒子・ハドロン物理学	天文・宇宙物理学	宇宙地球物理学	凝縮系物理学	生物物理学	物理化学	無機・分析化学	有機化学	生命情報・システム学	遺伝・生化学	形態・機能学	行動・生態学	学際理学	国際理学
理学	物理科学 自然界の理の解明を通じて、高度な専門性と学際的・国際的素養に裏打ちされた創造力とチャレンジ精神をもって人類と地球の未来に貢献できる人材を育成します。	素粒子論(E)	◎	○												○
		クォーク・ハドロン理論(H)	◎	○		○										○
		重力・素粒子的宇宙論(QG)	◎	○												○
		プラズマ理論(P)	○	◎	○											○
		宇宙論(C)	○	◎	○											○
		理論宇宙物理学(Ta)		◎	○											○
		銀河進化学(Ω)		◎												○
		複雑性科学理論(ΣT)	◎	○	○											○
		基本粒子(F)	◎	○											○	○
		高エネルギー素粒子物理学(N)	◎	○											○	○
		素粒子物性(Φ)	◎	○	○	○										○
		宇宙線イメージング(μ)	○		○										◎	○
		天体物理学(A)		◎	○											○
		宇宙物理学(赤外線)(Uir)		◎	○											○
		宇宙物理学(X線,重力波)(Uxg)	○	◎	○											○
		複雑性科学実験(ΣE)	◎	○	○											○
		大気圏環境変動(AM)		○	◎											○
		宇宙空間物理学観測(SSE)		○	◎											○
		太陽宇宙環境物理学(SST)		○	◎											○
		宇宙線物理学(CR)	◎	◎	◎										○	○
		太陽圏プラズマ物理学(SW)		○	◎											○
		非平衡物理(R)				◎	○				○					○
		物性理論(凝縮系)(Sc)	○			◎										○
		物性理論(量子輸送)(St)	○			◎										○
		計算生物物理(B)					◎				○				○	○
		固体磁気共鳴(I)				◎		○								○
		ナノ磁性・スピン物性(J)				◎		○								○
		機能性物質物性(V)				◎	○	○								○
		応答物性(Y)				◎										○
		生体分子動態機能(D)					◎	○								○
		光生体エネルギー(G)					◎	○				○				○
		細胞情報生物物理(K)					◎				○					○
	物質・生命化学 物質や物性の創造および物質・生命や自然の理の解明を可能とする新しい物質科学分野の開拓を、高度な専門性および学祭性や国際性の素養を磨きつつ、チャレンジ精神と情熱をもってやり抜くことができる強い意志をもつ人材を育成します。	光物理化学研究室				○		◎	○	○						○
		物性化学研究室				○		◎	○	○						○
		量子化学研究室						◎							○	○
		分子組織化学研究室				○		○	◎	○						○
		無機化学研究室						◎	◎	○					○	○
		生物無機化学研究室							◎	○		○				○
		有機化学研究室						○	○	◎		○		○	○	○
		機能有機化学研究室						○	○	◎					○	○
		特別研究室						○	○	◎					○	○
		生物有機化学研究室								◎	○	◎				○
		有機金属・材料化学グループ							○	◎					◎	○
	生命理学 生命科学の幅広い見識と深い専門性を統合した研究の企画を立案でき、かつ高度な研究手法も駆使できる研究遂行能力を持ち、さらには国際的に活動できるコミュニケーション力やメンター力、学術論文作成能力を有した、生命理解の地平を開拓できる知的リーダー育成を目指します。	脳回路構造学					○				◎		○	○	○	○
		細胞時空間統御					○				○	◎	◎			
		細胞内ダイナミクス					○				○	◎	○			○
		細胞間シグナル							○	○	◎	◎	○		○	○
		生殖生物学									○	○	◎		○	○
		発生成長制御学									○	○	◎	○		○
		細胞制御学					○				○	○	◎	○	○	○
		分子修飾制御学									○	◎	○		○	○
		超分子構造学					◎	○			○	◎			○	○
		異分野融合生物学					○				◎			○	◎	○
		遺伝学									○	○	◎	○		○
		生体機序論									○	◎	○	○		○
		植物生理学					○			○	◎	○	○	○	○	○
		細胞生物学					○				○	◎	○			○
		染色体生物学					○			○	○	◎	○		○	○
		器官機能学					○			○	○	○	◎	○		○
		海洋生物学								◎	○	○	○	◎	○	○
		多細胞秩序									○	○	◎	○	○	○
		植物分子シグナル学					○				◎	◎	○	○	○	○
		微生物運動					◎				○	◎	○	○	○	○

◎　主たるコース
○　◎以外で属するコース

コース名	主　要　内　容
(a) 素粒子・ハドロン物理学	素粒子、ハドロンそして重力の基本法則とそこから導かれる現象を理解し、新たな物理法則の理論的研究を行う、もしくは加速器実験・非加速器実験による新粒子・新物理現象探索を行う。(b)（c）コースが扱う初期宇宙や高エネルギー天体現象の物理的基礎を与えるとともにその研究で連携し、新物理現象探索や量子場の理論の物性系の応用の研究において(d)(f)(g)コースと連携する。
(b) 天文・宇宙物理学	星間物質と星・惑星の誕生、銀河・銀河団と進化並びに宇宙論的な現象を理解する。その手法は一般相対論・磁気流体力学などの宇宙物理学基礎理論に基づく理論的研究及び、電波からガンマ線までの全波長域の電磁波と重力波に対する地上とスペース観測である。宇宙観測による新粒子・新物理現象探索の研究において(a)コースと連携し、またプラズマ物理学や観測手法論等は(c)コースと連携する。
(c) 宇宙地球物理学	宇宙・太陽・地球を一つのシステムとして捉え、銀河宇宙、太陽・太陽圏、電磁気圏、大気圏に生起する多様な現象のメカニズムと相互作用を理論研究と観測研究の連携を通して解明する。(b)コースの宇宙・天体現象の研究と連携する。
(d) 凝縮系物理学	結晶固体、準結晶、量子液体、液晶、コロイド、アクティブマターなど、膨大な数の粒子が集合することで生み出される現象を理解し、それに基づいて新奇な現象を解明する。(a)コースの場の理論や、(f)(g)(h)コースが扱う物質の研究と連携し、さらに(e)(h)(j)コースの物理学的基礎を与える。
(e) 生物物理学	生命現象を物理学の研究対象と捉え、統計力学や、最新の顕微操作や分光技術、大規模な新規シミュレーションを用いて、第一原理的に理解することにより、生物の複雑な階層的かつ普遍的な法則を理解する。(d)コースと手法や基礎理論の開発の面で協働し、また(f)(g)(h)(i)(j)(k)(l)コースの研究と連携し、モデル化による物理学的基礎を与える。
(f) 物理化学	化学的現象を物理学的な方法論を用いて解析することで、物質及び物質が生み出す現象を理解する。またそれらをもとに、新物質を生み出す。(g)(h)コースが扱う物質の研究と連携し、さらに(d)(e)(i)(j)コースの化学的基礎を与える。
(g) 無機・分析化学	無機物質を中心とした化学反応の開拓、新奇物質の創製及び化学現象解明を行うとともに、化学現象を利用した分析のための新しい方法論を生み出す。また、無機物質が関与する生物学的現象の解明を行う。(f)(h)コースが扱う物質の研究と連携し、さらに(d)(e)(i)(j)コースの化学的基礎を与える。
(h) 有機化学	有機物質を中心とした化学反応の開拓、新奇物質の創製及び化学現象解明を行うとともに、生物学的現象を化学的な視点から解明する。(f)(g)コースが扱う物質の研究と連携し、さらに(d)(e)(i)(j)コースの化学的基礎を与える。

(i) 生命情報・システム学	生命現象をシステムとして理解するために、情報科学的な手法を取り入れて、生体システムの構成要素の同定と特性の解明、構成要素間のネットワーク構造の理解やシミュレーションを行う。(j) (k) (l) コースが扱う生命科学の各階層にシステム生物学的な視点を与えることで連携する。(e) コースの生物物理学や (h) コースの有機化学から、物理的、化学的な基礎を得る。(e) コースの生物物理学には、システム生物学的な基礎を与える。
(j) 遺伝・生化学	生命現象をつかさどる生体分子や遺伝子、タンパク質をその構造や機能の観点から理解するために、分子構造解析や遺伝学、生化学を基盤とした解明研究を行う。(i) (k) (l) コースが扱うシステム、細胞、行動生態の研究と連携する。(d) コースの凝縮系物理学コース、(e) コースの生物物理学や (h) コースの有機化学から、物理的、化学的な基礎を得る。(e) コースの生物物理学には、生化学的な基礎を与える。
(k) 形態・機能学	生物の発生、再生、生殖、それによって組織や器官や個体の形態が作られる機構を、遺伝子と生体分子と細胞の機能の観点から解明するため、遺伝学、発生生物学、細胞生物学や生理学を基盤とした解明研究を行う。(i) (j) (l) コースが扱うシステム、遺伝子やタンパク質、行動や進化の研究と連携する。(d) コースの凝縮系物理学コース、(e) コースの生物物理学から、物理化学的な基礎を得る。
(l) 行動・生態学	生物個体の生態や行動、生態系、進化など、マクロスケールでの生命現象の解明を行う。(j) (k) (l) コースが扱うシステム、遺伝子やタンパク質、細胞レベルでの研究と連携する。(c) コースの宇宙地球物理学から、地球科学的な基礎を得るとともに、同コースに生態学的な基礎を与える。
(m) 学際理学	理学研究の広い意味での新学術を創成する。宇宙線実験を応用した考古学研究や地球科学研究や、生命現象を理解し、機能を合成により創生し、さらには制御につなげるための、分子科学的研究を行う。(a)-(l)の各コースと広く連携し、新しい研究分野開拓を行う。国際高等研究機構に所属する教員など、専攻外の審査員に加えた学際的な体制で学位審査を行う。
(n) 国際理学	現行の国際コース (G30)を再編し、さらなる留学生の受入を行う。受け入れた留学生の学部学生時の履修状況に応じて後取り制度を柔軟に適用し、博士前期課程 1 年次の終わりごろをめどに(a)-(l)のコースに転コースできる。また国際理学コースのまま学際理学コースと同じく新しい研究分野開拓を行うこともできる。

１　出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

（１）本学大学院又は日本の他の大学院で修士の学位を授与された者及び２０２２年９月末日までに修士の学位を授与される見込みの者

（２）外国において、修士の学位を授与された者及び２０２２年９月末日までに授与される見込みの者

（３）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位を授与された者及び２０２２年９月末日までに授与される見込みの者

（４）我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位を授与された者及び２０２２年９月末日までに授与される見込みの者

（５）国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和５１年法律第７２号）第１条第２項に規定する１９７２年１２月１１日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び２０２２年９月末日までに授与される見込みの者

（６）外国の学校、上記資格（４）の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第１６条の２に規定する博士論文研究基礎力審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者及び２０２２年９月末日までに認められる見込みの者

（７）文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第１１８号）

（８）本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、２０２２年９月末日までに２４歳に達するもの

（出願資格（７）、（８）により出願する者は、事前審査を行う。該当者は２０２２年５月２０日（金）（必着）までに、①氏名　②住所、電話及びメールアドレス　③履歴（高校卒業後、現在まで）　④志望領域及び志望研究分野名を記載した書類（書式は自由）を提出すること。その際、封筒の表に「後期課程の事前審査書類請求」と朱書きすること。その後、教務学生係から事前審査書類をメールで送付する。）

２　募集人員

専　攻	領　域　名	募 集 人 員
理　学	生　　命　　理　　学	若干名

３　願書受付期間

２０２２年６月２０日（月）～２０２２年６月２４日（金）

受付時間　１０時～１２時、１３時～１６時

（郵送による場合も、上記期間内で、消印に関係なく**最終日の１６時**までに到着したものに限り受付ける。）

４　出願書類等

（１）名古屋大学大学院　志願票及び写真票

〔インターネット出願システムから、Ａ４サイズで片面カラー印刷すること。〕

※出願前３か月以内に撮影した正面向き、上半身、無帽、背景なしの顔写真データ（１０ＭＢまで）を用意し、インターネット出願システムからアップロードすること。

インターネット出願システムに入力した住所に合格通知を送付することから出願後に住所が変更になる場合には必ず教務学生係に申し出ること。

（２）名古屋大学大学院理学研究科志願票

〔ホームページ掲載の本研究科所定の用紙に必要事項を記入の上、出願すること。〕

（３）成績証明書

〔本研究科修了（見込）者は不要。〕

（４）修了（見込）証明書

〔本研究科修了（見込）者は不要。〕

（５）修士学位論文要旨

〔本研究科所定の用紙〕

（６）類型該当性の自己申告書
［５ 出願手続（６）を参照にすること］
（７）受験承認書
〔官公署その他民間会社等に在職している者は提出すること。〕
※社会人選抜として受験して、入学後も在職を希望する者は必ず提出すること
（８）国費外国人留学生証明書
〔現在、国費外国人留学生である者は、在学大学が発行する証明書を提出すること。〕

５　出願手続

出願手続は、インターネット出願システムでの出願登録及び入学検定料の支払いを行った後、出願期間内に必要な出願書類などを提出することにより、完了となる。

インターネット出願での出願登録及び入学検定料の支払いを行っただけでは、出願手続完了にはならない。なお、支払い期限は、出願登録日を含め４日間です。支払い期限内に入金がない場合は、出願登録は自動的にキャンセルとなるので注意すること。（キャンセルとなったときは再登録すること）

※払込締切日までの日数が４日より短い場合は、払込締切日が優先される。

出願者は、前項（１）～（８）の書類等を、本研究科教務学生係へ提出すること。出願書類の完備しない願書は受理しない。

◎注意事項

（１）**志望者は、出願前までにあらかじめ、入学後指導を希望する教員１名に直接連絡し、具体的研内容、収容能力などの点について問い合わせること。連絡のない場合は、願書を受理しないことがある。**教員の連絡先については、本要項巻末の「志望研究分野連絡先一覧」を参照のこと。

（２）**出願書類を郵送する場合は**、インターネット出願システムから印刷する「出願用宛名用紙」をカラーで出力し、角形２号の封筒に貼りつけて**締切日時までに必着**するよう送付すること。

（３）出願後は記載事項の変更及び検定料の払い戻しはしない。

（４）障害等があって試験場での特別な配慮を必要とする者にあっては、２０２２年７月１５日（金）までに、以下３点を添えて、その旨を教務学生係へ申し出ること。

（ａ）受験上の配慮申請書（障害の状況、受験上配慮を希望する事項とその理由書を記載したもの、様式随意、Ａ４サイズ）

（ｂ）障害等の状況が記載された医師の診断書、障害者手帳等（写しでもよい）。

（ｃ）障害等の状況を知っている第３者の添え書（専門家や出身学校関係者などの所見や意見書）。適宜それ以外の書類を添付しても構わない。
なお、受験や入学後の修学に関して相談の希望がある者は、出願期限までに問い合わせすること。

（５）留学生は安全保障輸出管理を受験までに実施する必要があるため、可能な限り早めに志望する研究分野の教員と連絡を取ること。なお、第１志望の研究室に配属されない場合には、安全保障輸出管理の制約で研究内容の制約を受ける可能性があることを理解した上で出願すること。

（６）２０２１年１１月「外国為替及び外国貿易法」（外為法）に基づく「みなし輸出」における管理対象の明確化に伴い、大学・研究機関における学生への機微技術の提供の一部が外為法の管理対象となる。これに伴い、学生が出願の際、「類型該当判断のフローチャート」に基づく「特定類型該当性の自己申告書」の提出が必要となる。一部の学生においては合格時に「誓約書」の提出が必要となる。該当する学生には別途教務学生係から連絡する。（海外から資金提供を受けている場合）

※類似該当性の判断について不明な場合は下記に問合せること。
名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部　安全保障輸出管理事務局
Ｅ－ｍａｉｌ：anzen@aip.nagoya-u.ac.jp　ＴＥＬ：０５２－７４７－６７０２

６　入学検定料の払込方法

（１）入学検定料　３０，０００円
※別途、払込手数料が必要となる。本学大学院前期課程修了見込みの者は入学検定料は必要ありません。
出願時に「検定料の免除について」をチェックすること。

（２）払込期間（日本時間）※出願登録期間も同一です。
２０２２年６月６日（月）１０時～６月２４日（水）１５時まで

（３）払込方法
入学検定料の支払いは、以下のいずれかの方法で行うこと。
ア　コンビニエンスストア（日本国内のみ）
イ　クレジットカード
ウ　ネットバンキング
エ　Ｐａｙ－ｅａｓｙ対応銀行ＡＴＭ
詳細については、「インターネット出願の流れ」を確認すること。

（４）入学検定料の返還について
出願書類を受理した後は、納入済みの入学検定料は返還しない。ただし、以下に該当する場合は、納入された入学検定料を返還する。なお、返還にかかる振込手数料は差し引く。
ア　入学検定料納入後、出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合
イ　入学検定料を二重に払い込んだ場合
※入学検定料の返還は銀行振込で行われる。振込先が海外の銀行口座の場合は、返還金額が大きく減額されるほか、振込までに多大な日数を要することに留意し、入学検定料の納入は慎重に行うこと。
返還請求方法については、名古屋大学ホームページ（http://www.nagoya-u.ac.jp/）→入学案内→大学院入試→入学検定料についてを確認すること

７　選抜方法

学力試験
学力試験の時間割表は、出願時に登録したメールアドレスに、願書受付期間終了後２週間を目途に送付する。メールが到着しない場合には、教務学生係まで連絡すること。
受験票はインターネット出願システムを通して周知するので、印刷して試験期日に持参すること。

領域名	試　験　期　日	試　験　科　目
生命理学	２０２２年８月 日程は個別に通知する	修士論文又はそれに代わる既発表や発表予定の研究論文の講演及び領域の口述試験

状況によってはＺｏｏｍ等によるオンライン試験になる可能性がある。日程や実施方法は、個別に通知する。

【社会人選抜希望者について】
社会人選抜を希望する者については、大学院卒業後の経歴や研究歴を鑑みて、追加の試験（口述試験や実技演習）を課す場合があるので必ず事前に受入を希望する教員に連絡をすること。

８　合格者発表

領 域 名	日　　時	場　　所
生　命　理　学	２０２２年８月３１日（水） 正午頃	理学部Ｃ館１階教務学生係事務室に掲示し、翌日理学研究科ホームページ http://www.sci.nagoya-u.ac.jp に掲載する。 なお、合格者には、９月初旬に文書で通知する。

９　入学料及び授業料

入学料　２８２,０００円
（２０２２年９月下旬の大学が指定する入学手続き期間内に納めること。）
授業料　前期分　２６７,９００円（年額５３５,８００円）
（注１）授業料は、前期及び後期の２期に分けて、前期にあっては５月、後期にあっては１１月に納入する。
（注２）入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合には、改正時から新たな納入金額が適用される。

【長期履修制度について】
職業を有している等の事情により時間的制約があり、標準修業年限での修了が困難な学生に対し、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、学位取得することを認める制度である。この制度により在学する正規学生を長期履修学生という。経済的負担を抑えつつ、修学期間を延長できるので、仕事等との両立を図りながら修了を目指すことができる。
長期履修が許可されれば、標準修業年限（博士後期課程３年）において支払う授業料の総額を、長期履修を認められた期間（年数）で学期毎に均分して支払うことになる。
社会人選抜での入学を希望する場合には、入学後指導を希望する教員に連絡する際に、併せて相談することが望ましい。入学後に申請することも可能だが、最終年次に在籍する者は申請できない。

長期履修を申請できる者は以下の者とする。外国人留学生（在留資格が留学の者）は適用対象外となる。
（１）職業を有している者
（２）育児又は親族の介護を行う必要がある者
（３）視覚障害、聴覚障害、肢体不自由その他の障害を有している者

１０　その他

出願にあたって提供された氏名・生年月日・住所その他の個人情報は、入学選抜、合格発表、入学手続き、及びこれらに付随する事項、並びに入学後の学務業務における学籍・成績管理を行うためのみに利用する。また、取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外には使用しない。

２０２２年４月

名古屋市千種区不老町（郵便番号４６４－８６０２）
名古屋大学大学院理学研究科
教務学生係
電　　話　０５２－７８９－２４０２
５７５６
Ｅ-ｍａｉｌ　ri－dai@adm.nagoya－u.ac.jp

地下鉄名城線「名古屋大学」駅
下車（２番出口へ）

自然災害対応等 緊急の連絡について

感染症や自然災害等により、試験日程の変更等が生じた場合は、下記の理学研究科ホームページでお知らせしますので、出願前や受験前に必ず確認してください。

◎理学研究科ホームページ
https://www.sci.nagoya-u.ac.jp/
◎連絡窓口
名古屋大学大学院理学研究科 教務学生係
電話 ０５２－７８９－２４０２、５７５６
ri-dai@adm.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学大学院理学研究科要覧

領域名	研究分野	コード番号	教員 教授	准教授	講師	助教
生命理学	脳回路構造学	340	上川内あづさ		石川　由希	田中　良弥
	細胞時空間統御	222	小田　祥久			
	細胞内ダイナミクス	331	五島　剛太		荒木　聡彦	山田　萌恵
	細胞間シグナル	360	松林　嘉克			大西（小川）真理
	生殖生物学	073	田中　実			菊地真理子
	発生成長制御学	350		吉岡　泰	杉山　伸	八木　克将
	細胞制御学	112	木下　専		細川　智永	
	分子修飾制御学	122	嘉村　巧			小原　圭介 西村　浩平
	超分子構造学	310		成田　哲博		
	異分野融合生物学	142	岩見　真吾			岩波　翔也
	遺伝学	151	大澤志津江			前川　絵美
	生体機序論	160	久本　直毅	花房　洋		
	植物生理学	281	木下　俊則 ◎	高橋　洋平 ＊	井上晋一郎 金岡　雅浩	高橋　宏二
	細胞生物学	291			平子　善章 瀧口　金吾	
	染色体生物学※	124	西山　朋子			
	器官機能学	102	日比　正彦	清水　貴史		橋本　寿史
	海洋生物学	271	五島　剛太			森田　真布 自見　直人
	多細胞秩序	120	打田　直行		松尾　拓哉	
	植物分子シグナル学	252	多田　安臣	井原　邦夫		野元　美佳
	微生物運動	370	小嶋　誠司	野間健太郎		

（注）（１）◎印は、兼任教員を示す。
（２）＊印は、特任教員を示す。
※印の研究分野については、募集を行わない。

領域名	研　究　分　野	主　　要　　内　　容
生命理学	脳　回　路　構　造　学	音楽や言語など、音は私たちの生活に様々な彩りを与える。一方で自分の生存とは無関係な音は、背景音として無視することができる。このように、動物の脳は、感覚器によって受容された音がその個体にとって意味を持つか否かを瞬時に判別できるのである。しかし、どのような神経回路がどのように動作してそのような判断を導いているのか、その神経機構には多くの謎が残されている。私たちは、小さな脳を持ち、神経機能を制御できる実験ツールが整備されたモデル生物であるショウジョウバエを主に用いて、個体にとって重要な音とそれ以外の雑音を弁別する神経回路基盤の解明に取り組んでいる。ショウジョウバエの雄は求愛時に、種に固有の音パターンを持つ「求愛歌」と呼ばれる羽音を奏でる。このような特徴的な音がショウジョウバエの脳でどのようにして解読されるのかを理解する目的で、私たちは現在、神経解剖学、生理学、行動実験、数理科学を組み合わせた解析を進めている。また、求愛行動を制御する神経機構一般や、その進化についても研究を開始し、近縁種間での比較や、ショウジョウバエと同じく聴覚を用いて配偶行動を行う蚊を用いた解析も行なっている。このような研究から、私たち哺乳類にも共通する、脳の動作原理を解明することを目指す。
	細　胞　時　空　間　統　御	細胞が適切に機能するには細胞骨格やオルガネラ、膜ドメインといった高次構造 の時空間的な制御が必須である。植物では個々の細胞が細胞壁を形成する位置や タイミングを厳密に制御することにより細胞の分裂、成長、分化を実現し、機能 的な組織や器官の発生の基盤を担っている。この細胞壁の形成はダイナミックな 細胞骨格の編成や膜タンパク質の自己組織化といった分子同士の驚くほど精密な 連携により導かれる。当研究グループでは、このような分子の振舞を時空間的に 統御する未知の機構 （時空間シグナル）を明らかにするべく、細胞表面に美しい 幾何学パターンの細胞壁を沈着する道管の細胞分化や、支えのない細胞質中に細 胞板を構築する細胞分裂に着目して研究を行っている。シロイヌナズナやコケ植 物に加え独自の細胞培養系を用い、イメージングや遺伝学、生化学、構成生物 学、モデリング等の手法を駆使して研究に取り組んでいる。これにより細胞内の 分子の振舞いから、細胞が機能する仕組み、さらには植物の発生・成長の基本原 理の理解を目指す。
	細 胞 内 ダ イ ナ ミ ク ス	細胞内のダイナミックな現象の理解を目標としている研究室である。現在最も注目しているのは微小管細胞骨格である。微小管がどのようにして生成され、動的性質を獲得し、さらに、細胞分裂装置・スピンドルなどの高次構造を形成するのかを解明したいと思っている。そのために、動物培養細胞、酵母およびヒメツリガネゴケを材料に、高解像度の生細胞イメージング、生化学および遺伝学的解析を組み合わせて、分裂制御タンパク質の機能解析を行っている。また、細胞間接着の解離機構や細胞自死の細胞断片化機構などについて生物毒素等を用いてその分子機構も研究している。
	細　胞　間　シ　グ　ナ　ル	分泌型ペプチドをはじめとする細胞間シグナル分子と、細胞膜貫通型の受容体タンパク質を介した細胞間情報伝達機構は、多細胞生物のかたちづくりを支える重要なしくみのひとつである。特定の受容体に特異的に結合するシグナル分子はリガンドと呼ばれるが、複雑な細胞内情報伝達カスケードの最上位に位置するリガンド−受容体ペアを見つけ出すことは、生物学における大きな課題である。また、植物特有の管状組織である篩管では、非分泌型ペプチドが長距離移行して情報を伝達することも明らかになっている。さらに細胞間に存在する多数の糖ペプチドも植物の成長に多面的に関わる。当研究グループでは、こうした新しい細胞間シグナルの探索やその作用機構の解明を基軸として、植物のかたちづくりや環境適応のしくみの解明に取り組んでいる。

領域名	研究分野	主要内容
生命理学	生殖生物学	生き物の性は遺伝子や環境などさまざまな要因によって決まる。また性を転換させてしまう生き物もいる。このような性決定の多様性や性転換の背後には、雌か雄かのどちらか一方になることを保障する「性のコアメカニズム」が存在し、幹細胞の制御とも関連して機能する。このメカニズムは「卵巣や精巣の大きさ」や「配偶子形成のタイミング」など、生殖の他の現象とも連動して多様な生殖様式をもたらす原因となることもわかり始めた。メダカは遺伝的に性が決まる動物でありながら環境による性決定や性転換が解析でき、生殖のさまざまな現象の解析も可能である。研究室では、トランスジェニック個体や突然変異体作製、キメラ解析、網羅的遺伝子発現解析、イメージング等の技術を駆使し、性や生殖の多様性をもたらす性のコアメカニズムが幹細胞制御とどのように連動して性を決めるのか、どのように他の生殖現象をも制御するのか、その分子機構の解明を行う。またそこから得られた結果を他の生き物を用いて検証し、生き物がどのように分子機構を変容させ豊かな性や生殖の現象を示すのかを理解することを目指す。
	発生成長制御学	生物の発生と成長はさまざまなレベルの制御システムにより調節されている。私たちは、その調節のしくみの普遍性と多様性の理解をめざし、多様な生物を用い以下の広範な研究に取り組んでいる。①モデル植物シロイヌナズナとヒメツリガネゴケを用いた、植物の形態形成・細胞増殖に関与するオルガネラ機能の分子生物学・細胞生物学的研究。②ショウジョウバエを実験動物として用いた、生体防御、発生における形態形成、細胞分化などの制御メカニズムに関する研究。③ショウジョウバエを用いたミトコンドリアの特殊化が発生過程において細胞の分化や機能を調節する機構の遺伝学的研究。
	細胞制御学	細胞の分裂・分化過程において、細胞の形態的・力学的表現型（形状・剛性・張力・運動性など）を規定する重要なシステムが細胞骨格系である。細胞骨格蛋白質の代表格であるチューブリンやアクチンが細胞質内に連続的なネットワークを形成するのに対し、セプチンは不連続なクラスターとして散在する点でユニークであり、解明すべき謎が多く残されている。当グループはこれまでに、セプチン細胞骨格系が細胞分裂以外にも神経突起形成やシナプス伝達などを介して個体レベルの形質（行動）や精神・神経疾患に関与することを示してきた。このように、細胞分裂・分化関連因子を欠損（または過剰発現）する遺伝子改変マウスや初代培養神経細胞の解析を通じて、ニューロン・グリア間相互作用、記憶・学習など高次機能、神経変性のメカニズムの謎を解明していくことを研究の柱としている。

領域名	研　究　分　野	主　　要　　内　　容
生命理学	分子修飾制御学	私たちの体の中でタンパク質は必要なときに合成され、その役目を終えると分解されています。従来タンパク質はその合成過程で厳密にコントロールされ、分解過程は細胞内で不要になったものの単なるゴミ処理機構と考えられていました。しかしながら近年の研究により、実はタンパク質分解もさまざまな生体機能を積極的にコントロールする制御系であることが明らかになり、非常に関心を集めています。私たちは、この中でもユビキチン-プロテアソーム系を介したタンパク質分解機構に注目し研究を進めています。特に最近では、ユビキチン-プロテアソーム系で分解されるタンパク質を新たに次々と見つけており、その分解の仕組みと生理的意義の解明を目指して研究を行っています。その結果、細胞内のオルガネラの動態、代謝、飢餓応答、ストレス耐性をはじめとする様々な過程においてユビキチン-プロテアソーム系が果たす新しい働きが見えてきています。研究材料は、真核細胞のモデルとして出芽酵母を主に用いており、分子レベルおよび細胞レベルでの解析を中心として研究を行っています。 細胞膜は脂質二重層構造を基本としますが、その内層と外層で脂質の組成や役割が大きく異なります。その様な非対称性は細胞の生存に必須であり、その異常は多くの疾患とも関わっています。最近、脂質非対称性の維持・調節にユビキチン修飾が深く関わることが明らかになりました。そこで、ユビキチン修飾を通した生体膜の恒常性維持機構にも注目して研究しています。 さらに私達はこのユビキチン－プロテアソーム系を利用することにより人為的にタンパク質の分解を制御する系の開発も行っています。この系は植物におけるオーキシン依存的なユビキチン化システムを植物以外の生物種に導入したもので、オーキシン添加によって標的とするタンパク質を速やかに分解・除去することが可能です。私達はこの系を用いることによって、様々な生命現象（DNA複製、染色体分配、核内構造など）の理解に努めるとともに、様々な生命現象を人為的に制御することができないかという視点からも研究を進めています。
	超分子構造学	個々の遺伝子が作り出す蛋白質が互いに複雑に相互作用しながら生理機能を果たす仕組みを解き明かすことがポストゲノム研究の一つの大きな柱であり、蛋白質複合体の構造解析は特別に重要な意義をもっている。私たちは細胞内輸送、転写制御、細胞周期制御、細胞骨格など、細胞生物学・生理学において重要な位置を占める研究課題を取り上げ、特に中心的役割を果たす蛋白質複合体の原子レベルの構造解析を重視し、さらに構造をベースにした機能解析による検証を行い、分子メカニズムを厳密に解き明かすことを目指している。X線結晶解析、クライオ電子顕微鏡やNMRなど、多彩な手法を相補的に駆使した最先端の構造生物学研究を推進している。 また、生体膜の動的形態分子制御機構の解明にも取り組んでいる。リポソーム（人工膜小胞）は脂質二重膜の最も単純化したモデルで、多くの生体膜の研究に用いられている。特に直径が１μmを超える巨大リポソームは、光学顕微鏡を使い直接リアルタイムで観察することができる。この巨大リポソームを用いて、膜の裏打ち構造を構成する蛋白質、膜作用性ペプチド、生体由来の両親媒性化合物などとの相互作用によって引き起こされる膜のダイナミックスを捉え、その仕組みを明らかにすることを通じて、生体膜の動的な形態制御の分子機構の解明を目指している。さらに脂質膜の表面での、蛋白質やペプチドの分布や動態を決める機構についても研究を進めている。

領域名	研　究　分　野	主　　要　　内　　容
生命理学	異分野融合生物学	最先端計測機器の登場は、今後の生命科学分野の研究スタイルを大きく変貌させることになる。生命を構成する最小単位である１細胞レベルで生命現象を理解する試みが始まっている一方で、これらのアプローチには多種多様でかつ膨大なデータを伴う。そして、巨大データが持つ情報を100%抽出し、利用することは極めて困難である。なお、従来の手法で取得される臨床・実験データでさえ内包する情報を不完全にしか利用できていない場合もある。生命現象は本質的に高次元で非線形であることを考えれば、数理科学、情報学、物理学など、異なる分野で開発されてきた理論や蓄積されてきた知見を利活用することで、データを制することが期待できる。つまり、適切な分野を融合することで、定量的な観点からメカニズムを追求する次世代の生命科学分野を創出できる。私達の研究の“心臓”となっている武器は「数理モデルとコンピューターシミュレーション」であり、異分野のクロスオーバーを前提とした生物学研究を進めている。そのために、これらの武器をもって臨床や実験研究の現場に入り込み、データ取得前段階から研究デザインに限界までコミットする等、人⇔人あるいはグループ⇔グループの有機的連携を重視した研究スタイルを貫いてきた。 　究極の目標は、生命の発生から死に至るまでの現象を定量的に理解すること、であり、特に、病原体感染や遺伝子異常により誘導される恒常性の変容や破綻が引き起こす表現型とその制御・操作に関連した研究に注力している。さらに、生体内では、細胞内での遺伝子発現の制御からそれぞれのタンパク質が機能し、細胞としての特徴を生み出す。そして、細胞間で相互作用し合いながらシステムとして機能する細胞群となり、生体内の組織を維持する。私たちは、これらの過程の時間変化を統合的に記述するための研究も精力的に推進している。この様に、様々な生命現象のエンジンになっている『増殖・分化・感染・変異・進化・適応する要素』が組み合わさって創発するシステムの定量的分析を可能にするユニークで汎用性の高いアプローチを開発し、個別の生命現象に対する理解を深める国内ではじめての異分野融合生物学の研究拠点である。
	遺　　伝　　学	多細胞生物では、地球上の生物と同様に、細胞同士が互いに協調したり競合します。そして、そのような細胞間のコミュニケーションが、特定の形・大きさの組織や器官を構築し、またその恒常性を維持する上で重要な役割を果たしていることが近年分かってきました。さらに細胞間コミュニケーションは、正常な状態の破綻によって引き起こされる「がんの発生や進展」も制御することが分かってきています。当研究室では、細胞間コミュニケーションに着目した個体レベルでの解析を行う上で優れたモデル系であるショウジョウバエを用い、細胞間コミュニケーションを介して（1）発生過程において特定の形・大きさの組織が構築される仕組み、（2）恒常性が維持される仕組み、（3）がんの発生や進展が引き起こされる仕組みを解析しています。一方で、個体レベルでの恒常性を維持する仕組みも解析します。蚊の食物である花の蜜と血液は、摂取されるとそれぞれが異なる器官へと到達します。食物の種類に応じたこのようなシステムが、どのようにして細胞集団の恒常性を維持しながら実行されているのか解析を進めていきます。また、蚊の食物が体内で選別される生理的意義について理解することを目指します。これらの研究を通して、多細胞生物の形づくりやその恒常性維持、そして、それらを支える細胞集団の動作原理の理解を目指します。

領域名	研　究　分　野	主　　要　　内　　容
生命理学	生　体　機　序　論	生物は生体内のプログラムあるいは外部からの刺激により、細胞および個体レベルでその機能や形態を自在に変化させることで、細胞増殖・分化・発生・再生などのさまざまな生命現象を制御している。本研究分野では、これらの生命現象を制御する分子機序とそのシグナルネットワークについて、線虫および培養細胞を用いた遺伝学および分子生物学的な解析を行っている。線虫をモデルとした研究では、主に神経軸索の形成および神経切断後に起こる軸索の再生について研究を進めている。これまでに、増殖因子・コラーゲン・セロトニン・体内マリファナ等の細胞外シグナルが、切断軸索内のJNK型MAPキナーゼ経路やcAMP経路等を介して軸索再生を制御することを明らかにしてきた。また培養細胞を用いた研究では、パーキンソン病関連因子LRRKによる細胞増殖・細胞内輸送・シリア形成およびオートファジー等の制御に着目し、それに関わる因子の生体内での機能や制御メカニズム、上流および下流のシグナルネットワーク等について解明を進めている。これらの研究を遂行することにより、それぞれの生命現象の制御機構を明らかにすると同時に、将来的な創薬・医療の礎となる成果を得ることを目指している。
	植　物　生　理　学	本グループでは、植物における環境応答のシグナル伝達の分子機構について主に研究を進めている。土に根を伸ばし固定的な生活を営む植物は、変転する周囲の環境（光、水分、栄養、温度等）に的確に応答し、成長しなければならない。植物の表皮に存在する気孔は、これらの環境変化に応答して開閉を行うことにより、光合成に必要な二酸化炭素の取り込み、蒸散や酸素の放出など植物と大気間のガス交換を調節している。我々は、このような特徴をもつ気孔孔辺細胞を環境応答のモデル材料として、青色光による気孔開口反応、植物ホルモン・アブシジン酸や二酸化炭素による閉鎖反応のシグナル伝達について、生理・生化学・分子遺伝学的手法、ケミカルジェネティスクを駆使した解析を進めている。また、これらの成果に基づき、気孔開度を人為的に制御する技術開発にも取り組んでいる。さらに、植物細胞の恒常性維持、様々な物質輸送や細胞伸長に関与する細胞膜プロトンポンプ（H^+-ATPase）の活性制御機構についても解析を進めている。加えて、本グループはトランフォーマティブ生命分子研究所（ITbM）にも所属しており、有機合成・化学などの異分野との積極的な融合研究も展開している。
	細　胞　生　物　学	真核生物の多細胞化は、生命が誕生してから現在に至る進化の歴史の中で最も重要なステップの一つとして位置づけられる。この多細胞化に必須だったのが、個々の細胞同士を結び付ける細胞接着機能の獲得である。細胞接着を体構築の基礎とする多細胞生物において、細胞と細胞、あるいは細胞と基質がどのような機構で接着するのかを知ることは、細胞の分化や極性の発現、組織・器官の形成・維持などのより高度な生命現象のメカニズムを解明するためには、きわめて重要である。当研究室では、細胞－細胞間の接着装置アドヘレンスジャンクションと細胞－基質間の接着装置ヘミデスモソームについて、分子および細胞レベルで研究をおこなっている。特に、上皮組織の分化・形成・維持における、これら接着装置とその構成タンパク質の役割について注目し、解析している。

領域名	研究分野	主要内容
生命理学	染色体生物学※	あらゆる生物において、ゲノムを次世代に正しく分配・継承することは、細胞の正常な分裂と増殖を支える最も重要な基盤である。真核生物のゲノムは、「染色体」というかたちをとることで、ゲノムの均等な分配を可能にし、染色体構築過程における異常は、染色体の不分離、延いては異数化、癌化、細胞死の原因となる。当研究室では、染色体という構造がいかに構築され、細胞の分裂に際していかに正しく分配されるのか、そのメカニズムを明らかにすること、そして細胞周期を通じて染色体の構造をダイナミックに変化させる分子基盤を明らかにすることを目指している。特にゲノムの複製に伴って確立され、分配に伴って切断される姉妹染色分体間の接着や、分裂期における染色体凝縮に焦点をあて、アフリカツメガエル卵、哺乳動物細胞、昆虫細胞、菌類を用いた多角的な細胞生物学的・生化学的アプローチ、および一分子生物学的アプローチにより、これらの分子メカニズムと進化的保存性を明らかにしていく。さらに染色体の構造変換、染色体機能と遺伝性疾患の関連を明らかにする研究も行っている。
	海洋生物学	臨海実験所は、三重県鳥羽市菅島の海岸に設置されており、豊富な生物資源を研究材料に用いることが可能である。実験所では、３つの研究チームが多様な海洋生物資源を用いて分子から生態までを網羅する研究を展開し、未知の生命現象の解明を目指している。生物多様性・系統進化学チームは海産無脊椎動物の多様性分類、系統に基づいた形態および生態進化の研究を進めている。海洋生化学チームは、海洋無脊椎動物や藻類を対象として、生物と生物の間でやりとりされる分子の探索や生合成機構の解明に取り組んでいる。海洋細胞生物学チームは菅島近海の海藻や菌類を材料に、細胞の成長、増殖、再生機構の解明を目指している。
	多細胞秩序	多細胞生物の個体内では多種多様な多くの細胞が互いに連絡を取り合い協調して活動している。その結果、多細胞の集合体である個体の形が巧みに作られたり、環境の変化に個体として柔軟に対応したりすることができる。私たちの研究室では、それら細胞群の秩序がいかに作られ維持されるのかに興味を持ち、そのために作動する仕組みの解明を目指している。とりわけ、芽生えた場所の変わりゆく環境の中で柔軟に生き抜くための様々な戦略を進化の中で獲得してきた植物を題材に、多細胞秩序のために細胞間で伝達される様々な情報の分子実体の追求や、その情報伝達の仕組みの解明に取り組んでいる。また、それら情報分子群の働きの人為的な改変や、人工化合物を活用して多細胞秩序の新制御点を発掘する試みも行っている。
	植物分子シグナル学	免疫系はホ乳動物を始めとした生物に広く保存されている感染防御応答システムであり、植物は固着の生活を営むが故に、極めて高度に発達した制御機構を保有している。私たちは、主にモデル植物であるシロイヌナズナを材料とし、特に植物ホルモンが誘導する免疫応答システムの解明を試みている。免疫系は、UV、高温等の非生物学的ストレスや昆虫等の生物学的ストレス、さらには生長制御系と相互作用することにより最適化されるが、その分子機構の大部分は明らかになっていない。順逆遺伝学的手法に加え、トランスクリプトーム解析、独自に開発したタンパク質合成技術や生化学的アプローチにより重要制御因子を網羅的に同定し、機能解析を進めている。 また、上記研究テーマに加え、古細菌等を材料とし、次世代シーケンサーを活用して、ゲノム、トランスクリプトーム、リボソームプロファイリング、ChIP解析を行うことで、様々な生命現象を物質（核酸、タンパク質）の変化としてとらえる研究を進めている。

※印の研究分野については募集を行わない。

領域名	研　究　分　野	主　　要　　内　　容
生命理学	器　官　機　能　学	脊椎動物において、受精卵から複雑な構造と機能を有する器官が形成する過程は、正確に制御されている。私達の研究室では、ゼブラフィッシュやメダカ等の小型魚類を用いて、大きく二つの研究テーマで、脊椎動物の器官形成および機能を制御する分子メカニズムの解析を行っている。一つは、動物の複雑な行動を制御する神経回路に関する研究である。発生過程において、神経組織では前後軸に沿って個々の神経領域が決定され、その領域で神経幹細胞または神経前駆細胞が産生される。ニューロンは、これらの細胞から産生され、細胞移動しながら神経突起を伸長し神経回路を形成する。本研究室では、神経回路のモデルとして、小脳に焦点を当て研究を進めている。小脳神経回路形成の分子メカニズムを理解するとともに、運動学習や恐怖応答学習等の高次機能における小脳神経回路の役割の解明を目指している。もう一つのテーマとして、神経堤細胞の分化機構の解析を行っている。神経堤細胞は、脊椎動物初期胚の背側に形成される幹細胞であるが、色素細胞を含む種々の細胞種に分化しながら移動し、機能を発揮する。神経堤細胞から多様な細胞へ分化過程を制御する遺伝子カスケードの解明を目指している。
	微　生　物　運　動	細胞が生きて行くためには、激変する環境に対応するために運動し、応答して生理機能を最大限に発揮する必要がある。この基本的な生命現象を理解するためには、細胞の運動機構や環境応答機構を理解するだけでなく、生理機能に重要な超分子構造（器官）がどのようにして適切な時間・場所に、適切な数だけ形成・配置されることで、そのはたらきを最適化しているのかを知る必要がある。私たちの研究グループでは、「細胞がどのように運動し、環境の変化に応答し、器官形成位置と個数を決定しているのか？」という課題の解明を目標とし、多くの原核生物で運動装置として用いられているべん毛、特にそのモーターに焦点を当てた研究を展開している。 私たちのグループでは、イオン駆動型べん毛モーターの作動原理に加えて、べん毛がなぜ適切な場所に適切な数だけ形成されるのか、そのメカニズム解明を目指し、分子生物学（変異体解析）・細胞生物学（タンパク質局在、運動能）・生化学（タンパク質精製・活性測定）・構造生物学（X線・電子顕微鏡解析）の手法を用いて研究を進めている。細胞運動は原核生物から高等動物まで保存された現象であり、私たちは扱いが容易で様々な手法を適用できる細菌の利点を最大限に生かした研究を展開して、生命現象の基本原理に迫ろうとしている。 さらに我々は神経機能の老化に着目した研究も行っている。これまでの老化研究は、DNA損傷や活性酸素の蓄積などの受動的メカニズムを中心に行われてきた。一方で、老化や寿命が生物種ごとに異なることから、遺伝的メカニズムの存在が示唆される。そこで我々は老化の遺伝的メカニズムを解明するために、生後一週間程度で老化の兆候を示し、さらに遺伝学的操作が容易な線虫C. elegansを用いて研究を行っている。

2022年10月　名古屋大学大学院理学研究科入・進学志願票
博士後期課程

志望領域名	生命理学領域	ふりがな		受験番号	
		氏名			
志望研究分野					
コード番号					

履　歴　書

年	月	学歴・職歴 空白期間がないように記入し、自宅において学習した期間については「自宅学習」として、その期間を記入すること。 外国における学歴を含む場合は、小学校入学から現在まで空白期間がないように記入すること。
		高等学校入学

生命理学領域　志望研究分野　連絡先一覧

研究分野	代表者	職名	Emailアドレス
脳回路構造学	上川内　あづさ	教授	kamikouchi@bio.nagoya-u.ac.jp
細胞時空間統御	小田　祥久	教授	yoshihisa.oda@bio.nagoya-u.ac.jp
細胞内ダイナミクス	五島　剛太	教授	goshima@bio.nagoya-u.ac.jp
細胞間シグナル	松林　嘉克	教授	matsu@bio.nagoya-u.ac.jp
生殖生物学	田中　実	教授	mtanaka@bio.nagoya-u.ac.jp
発生成長制御学	吉岡　泰	准教授	yoshioka@bio.nagoya-u.ac.jp
細胞制御学	木下　専	教授	kinoshita.makoto.u4@f.mail.nagoya-u.ac.jp
分子修飾制御学	嘉村　巧	教授	kamura.takumi.k1@f.mail.nagoya-u.ac.jp
超分子構造学	成田哲博	准教授	naritak@nagoya-u.jp
異分野融合生物学	岩見真吾	教授	iwami.iblab@bio.nagoya-u.ac.jp
遺伝学	大澤志津江	教授	ohsawa.shizue.x5@f.mail.nagoya-u.ac.jp
生体機序論	久本直毅	教授	i45556a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp
微生物運動	小嶋誠司	教授	z47616a@cc.nagoya-u.ac.jp
植物生理学	木下俊則	教授	kinoshita@bio.nagoya-u.ac.jp
細胞生物学	平子善章	講師	s47526a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp
染色体生物学	西山朋子	教授	nishiyama@bio.nagoya-u.ac.jp
器官機能学	日比正彦	教授	hibi@bio.nagoya-u.ac.jp
海洋生物学	五島剛太	教授	goshima@bio.nagoya-u.ac.jp
多細胞秩序	打田直行	教授	uchinao@gene.nagoya-u.ac.jp
植物分子シグナル学	多田安臣	教授	ytada@gene.nagoya-u.ac.jp

修士学位論文要旨

志望 領域名	生命理学	ふりがな 氏名	
出身大学 大学院	大学大学院 研究科	指導教員の 職・氏名	

◎　論文別刷・学会講演要旨等がある場合は添付してください。

受験番号
※

コード番号一覧表

出身大学・大学院コード表〔50音順〕

国外の大学	8888
表にない大学・学位授与機構出身者等	9999

ア　行

愛国学園大学	2166
愛知大学	2488
愛知医科大学	2494
愛知学院大学	2464
愛知学泉大学	2489
愛知教育大学	0268
愛知県立大学	1196
愛知県立看護大学	1214
愛知県立芸術大学	1208
愛知工科大学	2459
愛知工業大学	2465
愛知産業大学	2481
愛知淑徳大学	2495
愛知文教大学	2486
愛知みずほ大学	2463
会津大学	1128
青森大学	2039
青森県立保健大学	1113
青森公立大学	1112
青森中央学院大学	2044
青山学院大学	2190
秋田大学	0140
秋田経済法科大学	2080
秋田県立大学	1120
浅井学園大学	2017
朝日大学	2434
旭川大学	2009
旭川医科大学	0404
麻布大学	2352
亜細亜大学	2296
足利工業大学	2128
芦屋大学	2666
跡見学園女子大学	2152
石川県立看護大学	1165
石川県立大学	1163
石巻専修大学	2068
茨城大学	0152
茨城ｷﾘｽﾄ教大学	2113
茨城県立医療大学	1132
いわき明星大学	2103
岩手大学	0128
岩手医科大学	2055
岩手県立大学	1114
上野学園大学	2191
宇都宮大学	0156
宇都宮共和大学	2134
宇部ﾌﾛﾝﾃｨｱ大学	2769
英知大学	2667
江戸川大学	2189
愛媛大学	0352
愛媛県立医療技術大学	1305
ｴﾘｻﾞﾍﾞﾄ音楽大学	2744
奥羽大学	2101
桜花学園大学	2487
桜美林大学	2297
大分大学	0388
大分医科大学	0448
大分県立看護科学大学	1334
大阪大学	0292
大阪青山大学	2637
大阪医科大学	2602
大阪音楽大学	2603
大阪外国語大学	0296
大阪学院大学	2604
大阪教育大学	0300
大阪経済大学	2577
大阪経済法科大学	2623
大阪芸術大学	2605
大阪工業大学	2578
大阪国際大学	2624
大阪産業大学	2606
大阪歯科大学	2579
大阪樟蔭女子大学	2607
大阪商業大学	2608
大阪女学院大学	2635
大阪女子大学	1232
大阪市立大学	1236
大阪成蹊大学	2631
大阪体育大学	2609
大阪電気通信大学	2610
大阪人間科学大学	2629
大阪府立大学	1243
大阪府立看護大学	1242
大阪観光大学	2628
大阪薬科大学	2611
大谷大学	2539
大谷女子大学	2612
大妻女子大学	2192
大手前大学	2668
追手門学院大学	2613
岡山大学	0332
岡山学院大学	2735
岡山県立大学	1278
岡山商科大学	2726
岡山理科大学	2727
沖縄大学	2954
沖縄県立看護大学	1349
沖縄県立芸術大学	1348
沖縄国際大学	2953
小樽商科大学	0112
お茶の水女子大学	0204
尾道市立大学	1283
帯広畜産大学	0116

カ　行

嘉悦大学	2324
香川大学	0348
香川県立保健医療大学	1300
香川医科大学	0468
学習院大学	2193
学習院女子大学	2261
鹿児島大学	0396
鹿児島国際大学	2942
鹿児島純心女子大学	2946
活水女子大学	2883
神奈川大学	2332
神奈川県立保健福祉大学	1153
神奈川工科大学	2360
神奈川歯科大学	2353
金沢大学	0236
金沢医科大学	2388
金沢学院大学	2390
金沢工業大学	2387
金沢星陵大学	2386
金沢美術工芸大学	1164
鹿屋体育大学	0480
鎌倉女子大学	2354
川崎医科大学	2730
川崎医療福祉大学	2732
川村学園女子大学	2185
関西大学	2614
関西医科大学	2615
関西外国語大学	2616
関西国際大学	2681
関西鍼灸大学	2632
関西福祉科学大学	2625
関西福祉大学	2680
関西学院大学	2669
神田外語大学	2181
関東学院大学	2333
関東学園大学	2142
畿央大学	2694
北九州市立大学	1312
北里大学	2194
北見工業大学	0120
吉備国際大学	2725
岐阜大学	0252
岐阜経済大学	2432
岐阜県立看護大学	1185
岐阜女子大学	2433
岐阜聖徳学園大学	2435
岐阜薬科大学	1184
九州大学	0368
九州共立大学	2827
九州女子大学	2828
九州栄養福祉大学	2864
九州看護福祉大学	2907
九州共立大学	2827
九州芸術工科大学	0372
九州工業大学	0360
九州国際大学	2829
九州産業大学	2847
九州歯科大学	1316
九州情報大学	2862
九州女子大学	2828
九州東海大学	2944
九州保健福祉大学	2932
九州ﾙｰﾃﾙ学院大学	2906
共愛学園前橋国際大学	2143
共栄大学	2145
京都大学	0280
京都外国語大学	2540
京都学園大学	2554
京都教育大学	0284
京都光華女子大学	2544
京都工芸繊維大学	0288
京都嵯峨芸術大学	2560
京都産業大学	2541
京都女子大学	2542
京都市立芸術大学	1220
京都精華大学	2555
京都造形芸術大学	2557
京都創成大学	2559
京都橘女子大学	2546
京都ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ女子大学	2549
京都府立大学	1224
京都府立医科大学	1228
京都文教大学	2558
京都薬科大学	2543
共立女子大学	2195
共立薬科大学	2196
杏林大学	2315
近畿大学	2617
神戸医療福祉大学	2683
金城大学	2391
金城学院大学	2466
釧路公立大学	1104
国立音楽大学	2298
熊本大学	0384
熊本学園大学	2904
熊本県立大学	1332
倉敷芸術科学大学	2734
くらしき作陽大学	2728
久留米大学	2848
久留米工業大学	2857
広島文化学園大学	2755
群馬大学	0160
群馬県立県民健康科学大学	1142
群馬県立女子大学	1140
群馬社会福祉大学	2132
敬愛大学	2172
慶應義塾大学	2197
恵泉女学園大学	2321
敬和学園大学	2374
県立長崎ｼｰﾎﾞﾙﾄ大学	1329
県立広島女子大学	1284
県立広島大学	1282
工学院大学	2198
皇學館大学	2517
甲子園大学	2670
高知大学	0356
高知医科大学	0440
高知工科大学	2810
高知県立大学	1308
甲南大学	2643
甲南女子大学	2644
神戸大学	0304
神戸海星女子学院大学	2645
神戸学院大学	2646
神戸芸術工科大学	2679
神戸国際大学	2651
神戸市外国語大学	1248
神戸市看護大学	1258
神戸松蔭女子学院大学	2649
神戸商科大学	1252
神戸商船大学	0308
神戸女学院大学	2671
神戸女子大学	2647
神戸親和女子大学	2650
神戸ﾌｧｯｼｮﾝ造形大学	2684
神戸薬科大学	2648
神戸山手大学	2682
高野山大学	2600
公立はこだて未来大学	1102
郡山女子大学	2100
国学院大學	2199
国際大学	2376
国際医療福祉大学	2133
国際基督教大学	2299
国際教養大学	1121
国際仏教学大学院大学	2260
国際武道大学	2180
国士舘大学	2200
駒澤大学	2201
駒沢女子大学	2295

サ　行

埼玉大学	0164
埼玉医科大学	2160
埼玉学園大学	2146
埼玉県立大学	1143
埼玉工業大学	2161
佐賀大学	0376
佐賀医科大学	0444

相模女子大学	2356
作新学院大学	2131
札幌大学	2001
札幌医科大学	1100
札幌学院大学	2002
札幌国際大学	2016
産業医科大学	2858
産能大学	2361
山陽学園大学	2733
滋賀大学	0276
滋賀医科大学	0420
滋賀県立大学	1216
志學館大学	2945
滋賀県立大学	1216
四国大学	2779
四国学院大学	2790
静岡大学	0256
静岡県立大学	1190
静岡英和学院大学	2451
静岡産業大学	2456
静岡福祉大学	2449
静岡文化芸術大学	2457
静岡理工科大学	2454
自治医科大学	2140
実践女子大学	2202
四天王寺国際仏教大学	2618
芝浦工業大学	2203
島根大学	0328
島根医科大学	0428
島根県立大学	1277
下関市立大学	1288
首都大学東京	1149
就実大学	2731
秀明大学	2184
十文字学園女子大学	2150
淑徳大学	2171
種智院大学	2545
順天堂大学	2204
松蔭大学	2365
上越教育大学	0452
尚絅大学	2905
尚絅学院大学	2071
城西大学	2154
城西国際大学	2170
上智大学	2205
湘南工科大学	2355
尚美学園大学	2147
上武大学	2139
情報科学芸術大学院大学	1186
昭和大学	2206
昭和音楽大学	2362
昭和女子大学	2207
昭和薬科大学	2208
女子栄養大学	2209
女子美術大学	2210
白梅学園大学	2329
白百合女子大学	2300
仁愛大学	2396
信州大学	0248
杉野服飾大学	2211

椙山女学園大学	2467
鈴鹿医療科学大学	2518
鈴鹿国際大学	2519
駿河台大学	2162
諏訪東京理科大学	2419
成安造形大学	2525
聖学院大学	2163
聖カタリナ女子大学	2804
成蹊大学	2301
政策研究大学院大学	0496
成城大学	2212
星城大学	2485
聖心女子大学	2213
清泉女学院大学	2421
清泉女子大学	2214
聖泉大学	2527
聖徳大学	2188
西南学院大学	2849
西南女学院大学	2861
西武文理大学	2149
聖ﾏﾘｱﾝﾅ医科大学	2340
聖隷ｸﾘｽﾄﾌｧｰ看護大学	2455
聖路加看護大学	2215
聖和大学	2672
清和大学	2168
摂南大学	2582
専修大学	2216
洗足学園音楽大学	2357
仙台大学	2061
仙台白百合女子大学	2069
千里金蘭大学	2633
相愛大学	2580
創価大学	2316
総合研究大学院大学	0484
崇城大学	2903
創造学園大学	2124
園田学園女子大学	2673

タ　行

第一工業大学	2943
第一薬科大学	2850
大正大学	2218
太成学院大学	2626
大同工業大学	2468
大東文化大学	2219
高岡法科大学	2378
高崎経済大学	1136
高崎健康福祉大学	2137
高崎商科大学	2138
高千穂大学	2220
高松大学	2791
宝塚大学	2676
拓殖大学	2221
多摩大学	2322
玉川大学	2302
多摩美術大学	2222
筑紫女学園大学	2859
千歳科学技術大学	2018
千葉大学	0168
千葉科学大学	2123

千葉経済大学	2183
千葉工業大学	2173
千葉商科大学	2174
中央大学	2223
中央学院大学	2175
中京大学	2469
中京学院大学	2431
中京女子大学	2490
中国学園大学	2736
中部大学	2491
中部学院大学	2437
筑波大学	0408
つくば国際大学	2116
津田塾大学	2303
都留文科大学	1172
鶴見大学	2334
帝京大学	2304
帝京科学大学	2405
帝京平成大学	2182
帝塚山大学	2690
帝塚山学院大学	2620
デジタルハリウッド大学	2328
電気通信大学	0216
天使大学	2022
天理大学	2691
東亜大学	2766
桐蔭横浜大学	2363
東海大学	2224
東海学園大学	2482
東海女子大学	2436
東京大学	0172
東京医科大学	2225
東京医科歯科大学	0176
東京医療保健大学	2330
東京音楽大学	2238
東京海洋大学	0504
東京外国語大学	0180
東京学芸大学	0208
東京家政大学	2226
東京家政学院大学	2227
東京家政学院筑波女子大学	2117
東京基督教大学	2187
東京経済大学	2305
東京芸術大学	0184
東京工科大学	2319
東京工業大学	0192
東京工芸大学	2358
東京国際大学	2153
東京歯科大学	2228
東京慈恵会医科大学	2229
東京純心女子大学	2323
東京商船大学	0196
東京情報大学	2186
東京女子大学	2230
東京女子医科大学	2231
東京女子体育大学	2306
東京神学大学	2307
東京水産大学	0200
東京成徳大学	2169
東京造形大学	2308

東京電機大学	2232
東京都市大学	2271
東京都立大学	1148
東京都立科学技術大学	1150
東京都立保健科学大学	1151
東京農業大学	2233
東京農工大学	0212
東京福祉大学	2144
東京富士大学	2326
東京薬科大学	2234
東京理科大学	2235
同志社大学	2547
同志社女子大学	2548
道都大学	2014
東邦大学	2236
同朋大学	2470
東邦音楽大学	2155
桐朋学園大学	2309
東邦学園大学	2484
桐朋学園大学院大学	2380
東北大学	0132
東北学院大学	2062
東北芸術工科大学	2090
東北公益文科大学	2091
東北工業大学	2063
東北女子大学	2040
東北生活文化大学	2066
東北福祉大学	2064
東北文化学園大学	2070
東北薬科大学	2065
東洋大学	2237
東洋英和女学院大学	2364
東洋学園大学	2179
東和大学	2851
常盤大学	2115
常磐会学園大学	2627
徳島大学	0344
徳島文理大学	2780
徳山大学	2765
常葉学園大学	2452
獨協大学	2156
獨協医科大学	2141
鳥取大学	0324
鳥取環境大学	2710
苫小牧駒澤大学	2019
富山大学	0232
富山医科薬科大学	0424
富山県立大学	1160
富山国際大学	2379
豊田工業大学	2478
豊橋技術科学大学	0436
豊橋創造大学	2483

ナ　行

長岡大学	2367
長岡技術科学大学	0432
長岡造形大学	2371
長崎大学	0380
長崎ｳｪｽﾚｰﾔﾝ大学	2887
長崎外国語大学	2886

長崎県立大学	1328
長崎国際大学	2885
長崎純心大学	2884
長崎総合科学大学	2882
長野大学	2417
長野県看護大学	1182
中村学園大学	2852
長浜バイオ大学	2528
名古屋大学	0260
名古屋音楽大学	2477
名古屋外国語大学	2479
名古屋学院大学	2471
名古屋学芸大学	2499
名古屋経済大学	2496
名古屋芸術大学	2493
名古屋工業大学	0264
名古屋産業大学	2460
名古屋商科大学	2472
名古屋女子大学	2473
名古屋市立大学	1204
名古屋造形芸術大学	2480
名古屋文理大学	2462
奈良大学	2692
奈良教育大学	0312
奈良県立大学	1266
奈良県立医科大学	1264
奈良産業大学	2693
奈良女子大学	0316
奈良先端科学技術大学院大学	0492
鳴門教育大学	0476
南山大学	2474
新潟大学	0228
新潟医療福祉大学	2368
新潟県立看護大学	1155
新潟経営大学	2372
新潟工科大学	2370
新潟国際情報大学	2373
新潟産業大学	2377
新潟青陵大学	2369
新潟薬科大学	2375
西九州大学	2871
西日本工業大学	2853
二松学舎大学	2239
日本大学	2240
日本医科大学	2241
日本工業大学	2157
日本歯科大学	2242
日本社会事業大学	2243
日本獣医畜産大学	2318
日本女子大学	2244
日本女子体育大学	2245
日本赤十字看護大学	2320
日本赤十字九州国際看護大学	2865
日本赤十字広島看護大学	2757
日本赤十字北海道看護大学	2020
日本体育大学	2246
日本橋学館大学	2167
日本福祉大学	2475
日本文化大学	2317
日本文理大学	2914

人間環境大学	2461
人間総合科学大学	2148
ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ清心女子大学	2729

ハ　行

梅花女子大学	2621
梅光学院大学	2764
山口福祉文化大学	2768
白鷗大学	2130
函館大学	2003
羽衣国際大学	2630
八戸学院大学	2043
八戸工業大学	2042
花園大学	2550
浜松大学	2453
浜松医科大学	0412
浜松学院大学	2450
阪南大学	2622
東日本国際大学	2105
比治山大学	2753
一橋大学	0220
姫路工業大学	1260
姫路獨協大学	2677
兵庫大学	2652
兵庫医科大学	2653
兵庫教育大学	0464
兵庫県立看護大学	1262
兵庫県立大学	1263
弘前大学	0124
弘前学院大学	2041
広島大学	0336
広島経済大学	2745
広島県立大学	1286
広島県立保健福祉大学	1285
広島工業大学	2746
広島国際大学	2756
広島修道大学	2747
広島女学院大学	2748
広島市立大学	1287
広島国際学院大学	2749
広島文教女子大学	2750
ﾌﾟｰﾙ学院大学	2583
ﾌｪﾘｽ女学院大学	2335
福井大学	0240
福井医科大学	0456
福井県立大学	1166
福井工業大学	2395
福岡大学	2854
福岡教育大学	0364
福岡県立大学	1322
福岡工業大学	2855
福岡国際大学	2863
福岡歯科大学	2830
福岡女学院大学	2860
福岡女子大学	1320
福島大学	0148
福島県立医科大学	1124
福山大学	2752
福山平成大学	2754
富士大学	2053
藤女子大学	2004
藤田保健衛生大学	2492
富士常葉大学	2458
佛教大学	2551
文化女子大学	2248
文京学院大学	2164
文教大学	2158
文星芸術大学	2135
平安女学院大学	2526
平成音楽大学	2908
平成国際大学	2151
別府大学	2915
法政大学	2249
放送大学	0991
北星学園大学	2005
北陸大学	2389
北陸先端科学技術大学院大学	0488
星薬科大学	2250
北海学園北見大学	2012
北海学園大学	2006
北海道大学	0100
北海道医療大学	2011
北海道教育大学	0104
北海道工業大学	2007
北海道情報大学	2015
北海道東海大学	2013
北海道文教大学	2021
北海道薬科大学	2010

マ　行

前橋工科大学	1138
松阪大学	2497
松本大学	2420
松本歯科大学	2418
松山大学	2803
松山東雲女子大学	2805
三重大学	0272
三重県立大学	1212
三重県立看護大学	1215
南九州大学	2929
身延山大学	2406
美作大学	2743
宮城大学	1116
宮城学院女子大学	2067
宮城教育大学	0136
宮崎大学	0392
宮崎医科大学	0416
宮崎県立看護大学	1338
宮崎公立大学	1336
宮崎国際大学	2931
宮崎産業経営大学	2930
武庫川女子大学	2674
武蔵大学	2251
武蔵工業大学	2252
武蔵野音楽大学	2253
武蔵野大学	2311
武蔵野美術大学	2312
室蘭工業大学	0108
名桜大学	2955
明海大学	2159
明治大学	2254
明治学院大学	2255
明治鍼灸大学	2556
明治薬科大学	2256
名城大学	2476
明星大学	2313
目白大学	2165
ものつくり大学	2136
桃山学院大学	2581
盛岡大学	2054

ヤ　行

安田女子大学	2751
山形大学	0144
山形県立保健医療大学	1122
山口大学	0340
山口県立大学	1292
山口東京理科大学	2767
山梨大学	0500
山梨医科大学	0460
山梨英和大学	2407
山梨学院大学	2404
山梨県立看護大学	1176
山梨県立大学	1177
横浜国立大学	0224
横浜商科大学	2336
横浜市立大学	1152
四日市大学	2498

ラ　行

酪農学園大学	2008
立教大学	2257
立正大学	2258
立命館大学	2552
立命館ｱｼﾞｱ太平洋大学	2916
琉球大学	0400
龍谷大学	2553
流通科学大学	2678
流通経済大学	2114
ﾙｰﾃﾙ学院大学	2247
麗澤大学	2176
LEC東京ﾘｰｶﾞﾙﾏｲﾝﾄﾞ大学	2327

ワ　行

和歌山大学	0320
和歌山県立医科大学	1268
和光大学	2314
早稲田大学	2259
稚内北星学園大学	2023
和洋女子大学	2177

出身学部・研究科コード表〔50音順〕

【学部コード】

表にない学部
学位授与機構出身者等　999

ア　行

21世紀ｱｼﾞｱ学部　358
ｱｼﾞｱ太平洋学部　230
ｱｼﾞｱ太平洋ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学部　231
医学部　058
医学専門学群　154
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部　318
医用工学部　088
医療衛生学部　125
医療看護学部　306
医療技術学部　090
医療健康科学部　372
医療工学部　389
医療福祉学部　089
医療福祉工学部　340
医療福祉ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学部　348
医療保健学部　299
衛生学部　036
栄養学部　064
栄養科学部　285
園芸学部　048
応用情報学部　226
応用生物学部　276
応用生物科学部　175
応用生命科学部　292
音楽学部　071
音楽・文化学部　399

カ　行

会計ﾌｧｲﾅﾝｽ学部　386
外国語学部　011
海事科学部　385
開発工学部　114
海洋学部　055
海洋科学部　383
海洋工学部　384
科学技術学部　222
香川薬学部　320
学芸学部　004
家政学部　072
学校教育学部　005
環境学部　105
環境科学部　133
環境共生学部　190
環境・建築学部　396
環境ｼｽﾃﾑ学部　173
環境情報学部　085
環境情報ﾋﾞｼﾞﾈｽ学部　232
環境造園学部　284
環境創造学部　270
環境人間学部　186
環境防災学部　233
環境保健学部　062
環境理工学部　130
看護学部　063
観光学部　177
看護栄養学部　197
看護福祉学部　103
看護福祉心理学部　234
感性ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部　337
管理栄養学部　352
危機管理学部　297
企業情報学部　235
基礎工学部　039
技能工芸学部　264
九州工学部　302
教育学部　003
教育地域科学部　195
教育人間科学部　167
教育福祉学部　398
教育福祉科学部　191
教育文化学部　187
共生ｼｽﾃﾑ理工学類　334
行政社会学部　079
行政政策学類　332
教養学部　001
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ学部　401
経営学部　030
経営科学部　128
経営経済学部　102
経営情報学部　031
経営情報科学部　223
経営政策学部　382
経営文化学部　236
経営法学部　171
経済学部　029
経済科学部　165
経済経営学部　256
経済経営学類　333
経済情報学部　115
芸術学部　067
芸術工学部　042
芸術専門学群　156
芸術文化学部　271
健康栄養学部　366
健康科学部　132
健康管理学部　353
健康生活学部　354
健康福祉学部　269
健康ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｽ学部　400
健康ﾒﾃﾞｨｶﾙ学部　286
言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部　305
現代経営学部　350
現代経営情報学部　377
現代国際学部　391
現代ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部　221
現代社会学部　139
現代生活学部　356
現代中国学部　163
現代人間学部　394
現代ﾋﾞｼﾞﾈｽ学部　379
現代福祉学部　238
現代文化学部　116
現代法学部　239
現代法経学部　339
現代ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学部　364
現代ﾗｲﾌ学部　344
工学部　038
公益学部　274
工学資源学部　188
工芸学部　041
鉱山学部　046
国際学部　020
国際英語学部　283
国際・英語学部　319
国際開発学部　240
国際環境工学部　261
国際関係学部　019
国際教養学部　229
国際経営学部　126
国際経済学部　097
国際言語学部　149
国際言語文化学部　012
国際交流学部　162
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部　148
国際社会学部　194
国際商学部　117
国際情報学部　180
国際食料情報学部　176
国際政策学部　327
国際政治経済学部　028
国際総合科学部　336
国際地域学部　161
国際人間学部　279
国際文化学部　086
子ども学部　378
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部　138
ｺﾐｭﾆﾃｨ振興学部　241
ｺﾐｭﾆﾃｨ政策学部　182
ｺﾐｭﾆﾃｨ福祉学部　178
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｻｲｴﾝｽ学部　362
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ理工学部　094

サ　行

ｻｰﾋﾞｽ経営学部　200
ｻｰﾋﾞｽ産業学部　263
産業経営学部　260
産業社会学部　021
産業情報学部　387
産業保健学部　150
産業理工学部　393
歯学部　059
事業構想学部　158
ｼｽﾃﾑ科学技術学部　196
ｼｽﾃﾑ工学部　111
ｼｽﾃﾑ情報科学部　242
ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ学部　325
社会学部　016
社会ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ学部　402
社会科学部　017
社会環境学部　268
社会ｼｽﾃﾑ科学部　277
社会情報学部　104
社会福祉学部　022
社会文化学部　243
獣医学部　050
獣医畜産学部　049
商学部　033
生涯学習ｼｽﾃﾑ学部　244
商経学部　034
商船学部　045
情報学部　032
情報科学部　082
情報環境学部　275
情報工学部　044
情報ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部　307
情報社会科学部　140
情報社会政策学部　181
情報ﾌﾛﾝﾃｨｱ学部　397
情報文化学部　106
情報ﾒﾃﾞｨｱ学部　245
情報理工学部　392
食産業学部　349
食品栄養科学部　065
食文化学部　168
食物栄養学部　272
神学部　009
鍼灸学部　078
心身科学部　363
神道文化学部　281
人文学部　014
人文科学部　189
人文社会学部　108
人文社会科学部　015
心理学部　224
心理科学部　355
心理福祉学部　322
診療放射線学部　304
水産学部　054
数理情報学部　225
ｽﾎﾟｰﾂ科学部　185
ｽﾎﾟｰﾂ・健康科学部　109
生活科学部　074
生活環境学部　107
政経学部　026
政策学部　227
政策科学部　098
政策情報学部　247
政策ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学部　308
生産工学部　040
政治経済学部　027
生物産業学部　120
生物資源学部　080
生物資源科学部　137
生物資源環境学部　326
生物生産学部　056
生物生命学部　345
生物理工学部　099
生命科学部　095
生命環境学部　329
生命環境科学部　328
生命ｼｽﾃﾑ工学部　341
生命理工学部　135
繊維学部　057
造形学部　069
造形芸術学部　081
総合科学部　076
総合管理学部　124
総合ｷｬﾘｱ学部　317
総合経営学部　248
総合情報学部　129
総合政策学部　084
総合人間学部　091
総合人間科学部　370
総合人間・文化学部　249
総合福祉学部　250
総合文化学部　278
総合文化学群　342
総合理工学部　136
総合ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部　369
創造芸術学部　295
ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ学部　296
ｿﾌﾄｳｪｱ情報学部　183

タ　行

第一学群　151
第二学群　152
第三学群　153
体育学部　066
体育専門学群　155
地域学部　251
地域科学部　144
地域環境科学部　179
地域教育文化学部　343
地域政策学部　146
地球環境科学部　184
畜産学部　051
知的財産学部　376
ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部　100
ﾃﾞｻﾞｲﾝ工学部　112
ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部　346
電気通信学部　043
電子情報学部　267
都市環境学部　324
都市教養学部　323
都市経済学部　199
都市情報学部　141
図書館情報学部　077
図書館情報専門学群　157

ナ　行

新潟歯学部	301
日本文化学部	122
人間学部	110
人間科学部	075
人間環境学部	131
人間関係学部	018
人間看護学部	368
人間健康学部	360
人間社会学部	083
人間生活学部	118
人間生活科学部	404
人間発達学部	289
人間発達文化学類	331
人間福祉学部	159
人間文化学部	134
ﾈｯﾄﾜｰｸ情報学部	273
農学部	047
農学生命科学部	166

ハ　行

ﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ学部	374
ﾊﾞｲｵﾆｸｽ学部	361
発達科学部	092
発達教育学部	390
比較文化学部	013
光科学部	170
ﾋﾞｼﾞﾈｽ学部	381
ﾋﾞｼﾞﾈｽ情報学部	280
美術学部	068
美術工芸学部	070
美術文化学部	253
ﾋｭｰﾏﾝｹｱ学部	321
表現学部	254
ﾌｧｯｼｮﾝ造形学部	330
福岡医療技術学部	403
福祉経営学部	365
福祉社会学部	169
福祉情報学部	380
福祉総合学部	388
仏教学部	010
不動産学部	123
文学部	006
文化学部	160
文科一類	208
文科二類	209
文科三類	210
文化教育学部	145
文化言語学部	347
文化情報学部	096
文化政策学部	257
文化創造学部	258
文化表現学部	395
文教育学部	007
文芸学部	008
文理学部	002
保育学部	290
法学部	024
法経学部	025
法政経学部	228
法政策学部	164
法文学部	023
保健学部	061
保健医療学部	093
保健医療福祉学部	198
保健衛生学部	087
保健科学部	142
保健看護学部	300
保健福祉学部	101
ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ･ﾂｰﾘｽﾞﾑ学部	338

マ　行

ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学部	351
ﾒﾃﾞｨｱ学部	193
ﾒﾃﾞｨｱ造形学部	359

ヤ　行

薬学部	060

ラ　行

酪農学部	053
理学部	035
理科一類	211
理科二類	212
理科三類	213
理工学部	037
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部	357
流通学部	143
流通科学部	127
流通経済学部	259
流通情報学部	147

【研究科コード】

表にない研究科	
学位授与機構出身者等	999

ア　行

医学研究科	658
医学系研究科	657
栄養学研究科	664
園芸学研究科	648
音楽研究科	671

カ　行

会計学研究科	762
外国語学研究科	611
家政学研究科	672
学校教育学研究科	605
環境学研究科	706
環境科学研究科	705
環境ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研究科	776
看護学研究科	663
基礎工学研究科	639
教育学研究科	603
教育発達科学研究科	604
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究科	768
経営学研究科	630
経営経済学研究科	702
経営情報研究科	764
経営情報学研究科	631
経済学研究科	629
経済経営研究科	765
経済情報研究科	763
芸術研究科	779
芸術学研究科	667
芸術工学研究科	642
健康科学研究科	732
現代社会研究科	741
工学研究科	638
工学系研究科	737
工芸科学研究科	641
国際言語文化研究科	995
鉱山学研究科	646
国際学研究科	620
国際開発研究科	991
国際関係研究科	619
国際関係学研究科	742
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究科	743
国際地域文化研究科	744
国際人間学研究科	745
国際文化研究科	686
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究科	746
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ理工学研究科	694

サ　行

歯学研究科	659
ｼｽﾃﾑ自然科学研究科	760
社会学研究科	616
社会科学研究科	617
社会情報学研究科	704
社会福祉学研究科	622
獣医学研究科	650
商学研究科	633
商船学研究科	645
情報学研究科	632
情報･経営開発研究科	766
情報科学研究科	682
情報工学研究科	644
人文科学研究科	614
人文社会科学研究科	615
心理学研究科	748
水産学研究科	654
数理情報研究科	761
生活科学研究科	674
生活学研究科	750
生活健康科学研究科	756
政策科学研究科	771
生産工学研究科	640
生物資源学研究科	680
生物資源科学研究科	758
生命農学研究科	994
生命理工学研究科	735
造形芸術研究科	777
総合科学研究科	676
総合学術研究科	773
総合基礎科学研究科	757
総合政策研究科	772
総合理工学研究科	736

タ　行

体育学研究科	666
多元数理科学研究科	993
地域科学研究科	767
地域政策科学研究科	679
地球科学研究科	759
畜産学研究科	651
中国研究科	740
ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究科	778
電気通信学研究科	643
都市情報学研究科	775
図書館情報学研究科	677

ナ　行

人間科学研究科	675
人間環境学研究科	731
人間関係学研究科	749
人間社会学研究科	683
人間情報学研究科	992
人間生活学研究科	751
人間福祉研究科	754
人間福祉学研究科	755
人間文化研究科	734
農学研究科	647

ハ　行

比較文化研究科	613
ﾋﾞｼﾞﾈｽ･ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ研究科	769
美術研究科	780
美術学研究科	668
美術工芸学研究科	670
文学研究科	606
文化政策研究科	774
文化創造研究科	747
法学研究科	624
保健衛生学研究科	753
保健学研究科	752
保健福祉学研究科	701

マ　行

ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研究科	770

ヤ　行

薬学研究科	660
薬学系研究科	661

ラ　行

理学研究科	635
理工学研究科	637
流通科学研究科	727